

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
 担当課長名：服部 卓也

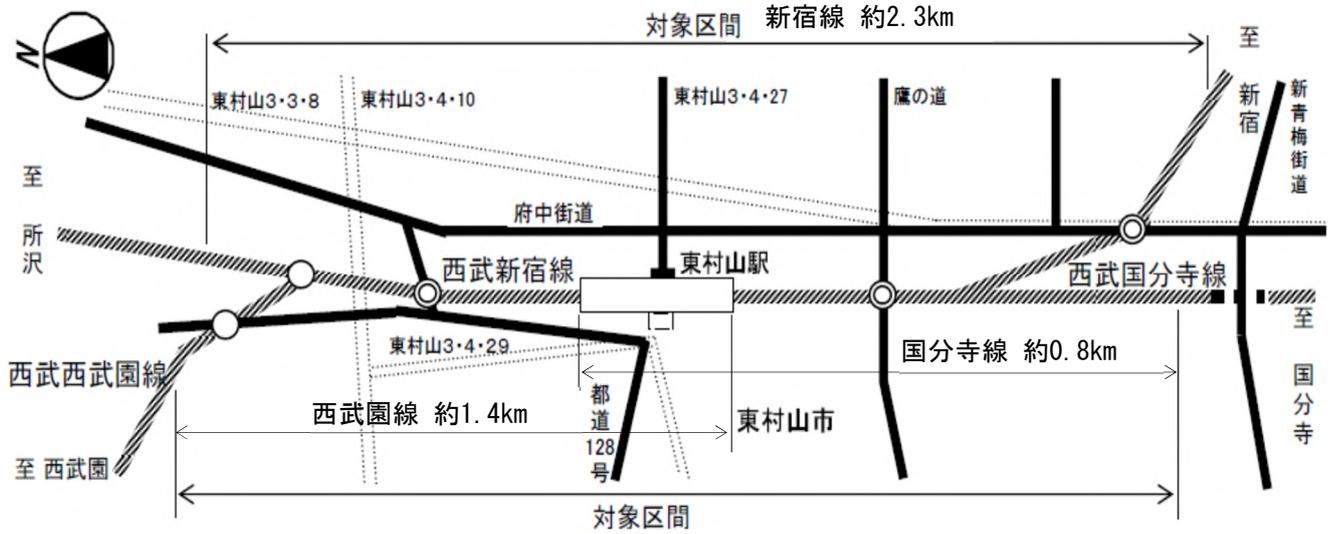
事業名	連続立体交差事業 西武鉄道新宿線他2路線（東村山駅付近）	事業区分	連続立体交差	事業主体	東京都
起終点	自：東村山市本町 至：東村山市久米川町			延長	約4.5km
事業概要					
本事業は、西武鉄道新宿線、国分寺線及び西武園線の東村山駅付近の約4.5kmにおいて鉄道を高架化することにより、5箇所の踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。					
H25年度事業化		H24年度都市計画決定		H25年度用地着手	
H26年度工事着手					
全体事業費	約935億円	事業進捗率	約57%	供用済延長	— km
計画交通量	195,510台時/日（踏切交通遮断量）				
費用対効果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 3.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 344/1,065億円 事業費：337/1,057億円 維持管理費：7.9/7.9億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,213/1,213億円 移動時間短縮便益：1,112/1,112億円 走行経費減少便益：92/92億円 交通事故減少便益：8.7/8.7億円	基準年	令和5年
感度分析の結果					
(事業全体) 交通量：B/C=1.0~1.3（交通量±10%） 事業費：B/C=1.1~1.2（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.1~1.2（事業期間±20%）					
(残事業) 交通量：B/C=3.2~3.9（交通量±10%） 事業費：B/C=3.2~3.9（事業費±10%） 事業期間：B/C=3.3~3.8（事業期間±20%）					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・交通渋滞の解消、歩行者・自転車の回遊性の向上 踏切の除却や鉄道の高架化等により、東西市街地の行き来が容易になり、歩行者・自転車の移動が円滑化され、回遊性が向上する。 ・通学路の安全性確保 踏切の除却により踏切を横断することなく通学できるようになるため通学路の安全が確保される。 ・関連事業の誘発 鉄道の高架化により、駅前広場の再整備、市街地開発事業等の関連事業の誘発に貢献する。 					
関係する地方公共団体等の意見					
—					
事業評価監視委員会の意見					
事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等					
東村山3・4・10号線が事業着手するなど、関連する街路事業の計画が進んでいる。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得率約99%、事業進捗率約57% ・未取得用地の早期取得を目指し、引き続き取り組んでいく。 ・仮線に切替え、駅部・一般部の高架橋、取付部の盛土構築を実施している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画線内の用地については、工程上のクリティカルとなる箇所の取得は完了している。 ・工事施行に必要な都市計画線外の土地の借地が一部遅れているが、施工計画の変更などにより、事業工程に影響しないよう努めている。 ・工事については、高架橋、駅舎及び電力・通信等の高架化切替に向けた工事を進める。 					
施設の構造や工法の変更等					
発生材の再利用や再生材の使用により、コスト縮減を図っている。					

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



凡 例	
.....	未整備都市計画道路
////	鉄道平面区間
■■■■	鉄道立体化済み
◎	ボトルネック踏切
○	その他の踏切



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。